

# スミレの魅力再発見!

「スミレ王国」と呼ばれるほどに、日本はスミレの宝庫。北から南、平地から海辺、高山まで約80種の原種があります。育てやすい種類から珍品まで多彩なスミレをご紹介します。

日本人になじみ深い花

スミレは古くから日本人が親しんできた春の山野草の一つです。世界に約400種の原種があり

野生種ならではの季節感あふれる花の魅力です。

園芸研究家

久山 敦



## 繊細で 移り気な 日本種

ですが、そのうち約80種は日本のスミレ。道ばたでもよく見かけられるのでたくましいイメージがありますが、鉢植えで育てると意外にも短命。また、自分でタネを飛ばしたり、アリがタネを運んだりするので、思いがけない場所に咲くこともしばしば。そんな繊細で移り気なところも、人々を夢中にさせる魅力の一つかもしれません。

くやまあつし/1947年、兵庫県生まれ。学生時代より植物に親しみ、英国王立キュー植物園に留学。兵庫県立淡路ファームパークの大温室やロックガーデンなどの設計を手がけたのち、2007年より大阪市の植物園「咲くやこの花館」の館長を務める。『四季の山野草栽培』(NHK出版)など著書多数。

イソスミレ *Viola grayi*

北海道や本州の砂浜に分布。花径2.5cmとほかのスミレに比べて大きい。比較的乾燥に強く、栽培しやすい。草丈約15cm。



タチツボスミレ *Viola japonica*

日本全土の平地から低山に分布し、どの地域でも栽培しやすい。薄紫色の花が基本種で、ほかに白やピンクなどの変異がある。草丈5〜20cm。



シレットコスミレ *Viola blinniana*

北海道・知床半島の山地で岩場などに自生する。白色で中心部が淡い黄色になる。平地では夏越しが難しい。草丈5〜7cm。



エイザンスミレ *Viola saxatilis*

エイザンスミレは本州から九州各地の低山の落葉樹林に生え、やや湿ったところに多く生える。深い切れ込みのある葉が特徴。草丈約10cm。

オリヅルスミレ *Viola subaiflora*

1982年、沖縄県で発見された。溪流沿いに自生するため暑さに弱い。寒さも苦手なため、温度管理が難しい。草丈約10cm。

オオバキスミレ *Viola borealisiphanta*

栽培が難しいキスミレの仲間。なかでは一番育てやすい。北海道から本州の低山や林縁に自生。半日陰を好む。草丈10〜15cm。

